事例３
「暖かいこたつを使って生活したい」

相 談 内 容

87歳の菅野静子さん（仮称）は要介護１の認定を受け、長男夫婦が主たる介護者となり同居しています。
週１回、入浴のためにデイサービスを利用しています。
調理や清掃以外は自立していますが、最近、筋力低下が著しく、室内移動はシルバーカーを利用しています。
しかし、歩行するときにふらつきや転倒することもあり、非常に危険なため安全で生活できる住宅改修や福祉用具の利用を検討したいとのことで相談がありました。
また、こたつを非常に好んでいるため、立ち上がりがしずらくなっても、こたつは使っていたいという本人の強い希望があります。

家族や静子さんが希望する住宅改修

①安全に歩いて生活できる住宅改修や福祉用具を利用したい。
②転倒の危険があっても、暖かいこたつをずっと使っていたい。（使わせてあげたい）

住宅の状況と静子さんの身体状況・生活状況を確認してみました

住居の状況

①バリアフリー住宅のため段差による転倒の心配はありません。
②こたつでの床上生活とベッド・椅子上生活が混在しており、立ち上がる際に、立ち上がりの支えとなるもの（手すりや家具）がなかったり、不安定であったりするため非常に転倒する危険性の高い生活になっています。

身体の状況

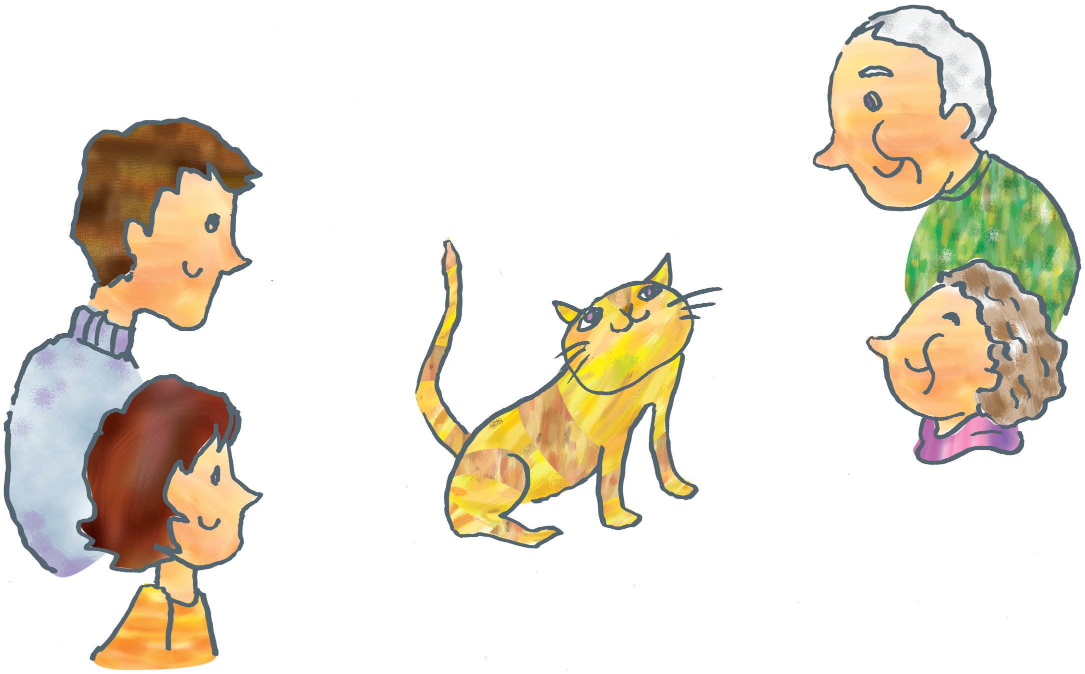
①過度の円背および左膝間接拘縮・疼痛があり、立ち上がり動作や歩行が難しくなり、実際に転倒することが増えてきています。
②難聴はありますが意思疎通はできており認知症は認められません。

生活の状況

①寝室が主たる生活の場で、食事の際に食堂へシルバーカーで移動してきますが、それ以外はこたつかベッドで休むことが多いようです。

その結果静子さんに必要な住宅改修や福祉用具について考えてみました
―専門家からのアドバイス―

静子さんは長年円背および左膝間接拘縮により、自分なりの工夫で立ち上がりや歩行等の移動を行ってきており、今まで下肢の不便さを上肢で補ってきたため、ＡＤＬ（日常生活動作）は非常に高い状況だと思われます。
しかし、こたつから立ち上がる時にかなりの体力を消耗することから、移乗や歩行時の不安定感を増徴させている状況だと考えられます。また、シルバーカーが身体と合っておらず、転倒を引き起こしていることが考えられました。

「こたつの使用を継続したい」との静子さんの強い希望があるため、転倒を防止するため、こたつからの立ち上がりに関しては電動昇降座椅子の導入を考えてみる必要があります。
また、こたつでの床上生活とベッド・椅子上生活が混在しているため、移動する場所に、手すりや安定した家具を配置することが望ましいでしょう。
シルバーカーについては使用を見直し、対象者の背丈を考え子供用歩行器の使用も検討するといいかもしれません。

総合意見
今後も身体状況の低下に伴い、手すりや電動ベッド、屋内用車椅子の検討が必要になると思われますが、大幅な住宅改修や安易な変更は混乱の元となるため、なるべく構造を変えずに、また、静子さんの希望（こたつ生活を継続した）にそった形で安全な生活が送れるようにすることが必要です。